

企業名： 愛知製鋼

レポート名： 統合レポート 2021

1. この会社が目指す姿が理解できるか

結論から言うと、「統合レポート 2021」を読めば、難点はあるものの愛知製鋼の目指す姿は理解できるといえる。なぜならば、この統合レポートでは、同社が到達したい目標の姿として、「2030年ビジョン」というものを具体的に挙げているからだ。

「2030年ビジョン」Company of Choice Globally	
基本方針	事業とモノづくり力の革新で収益力を向上させESG経営を実践
経営指針	(1)持続可能な地球環境への貢献 (2)事業の革新で豊かな社会を創造 (3)従業員の幸せと会社の発展

【愛知製鋼「統合レポート 2021」05 ページより】

この「2030年ビジョン」は、同社が年輪的成長を続けることを目的に、長期的な視点のもと社会の変化に対応していくための愛知製鋼の軸として 2020 年に策定されたものである。更に、同社は 2021 年 4 月から、「2030年ビジョン」実現に向け最初の 3 年間で取り組むべき重要課題や道筋を具体的に示す「新中期経営計画（新中計）」をスタートさせており、統合レポートでもこの新中計の重要課題として取り組んでいる 5 項目に対して詳しく説明がされている。

一方、難点として、この統合レポートでは「2030年ビジョン」に対して詳しく述べられすぎていると感じた。この統合レポートでは、「2030年ビジョン」に対して、

①2030 年に向けた三つの経営指針

②新中期経営計画において、代表取締役社長である藤岡高広氏がポイントとしている 4 点

③新中期経営計画に伴う重要課題 5 つ

の 3 点が述べられているが、特に②と③について、内容として重なっている部分と重なっていない部分がある。したがって、本レポートを読むに当たり、結局何が一番重要なのか、という点で混乱した。

しかし、愛知製鋼が目指している姿は何か、と端的に問われれば、「2030年ビジョン」を挙げることができるだろう。

2. この会社の競争優位性が理解できるか

この統合レポートを読めば、愛知製鋼の競争優位性は理解できる。統合レポートからは、愛知製鋼は、熱間圧延棒鋼、ステンレス形鋼・平鋼、電動車用リードフレームの国内生産シェアや、単一の鍛造工場としての国内生産量が 1 位であり、かつ、ネジウム系異方性ボンド

磁石の世界生産シェアが世界1位であることが分かる。これらは、明確に愛知製鋼の競争優位性であると言えるだろう。しかし、これらの事は、統合レポートの最後の数ページに書いてあり、今回のように、愛知製鋼の競争優位性を探す目的で読めば理解できるが、目的なく統合レポートを読む場合には見つけにくいだろう、と感じた。

3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

理解できる。前述の通り、愛知製鋼は様々なモノで国内生産シェア、世界生産シェア1位を獲っている。特に、世界生産シェア1位を誇るネジウム系異方性ボンド磁石のシェア率は40%であるため、まだまだこの業界内の愛知製鋼の優位性は変わらないだろう、と感じた。また、ネジウム系異方性ボンド磁石は、特殊鋼製造のノウハウから生まれた鉄供給材の5事業で新ビジネス創出を推進するスマートカンパニーの主力製品である。これからも分かる通り、愛知製鋼は既存のビジネスに加えて、新ビジネスへも力を入れているため、既に生産シェア1位を獲っているモノだけでなく、これから更に世界生産シェアの大部分を担える独自のモノを生み出してくれるのではないかと感じた。

4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

結論としては、人的資本の価値向上は達成できるものの、十分ではないと感じた。愛知製鋼の2030年ビジョンのための新中期経営計画の重要課題5つの一つとして、「安全で働きやすい環境づくりの促進による従業員の幸せ」というものがある。統合レポートを読むと、その中で人材育成にも取り組んでいることが分かったが、どちらかと言うと、人材育成というよりは、社員の健康・安全・人権などに力を入れている印象を受けた。人材育成の面で見えていくと、愛知製鋼には「自工程完結研修」「専門技能研修」の二つがある。自工程完結研修とは、失敗ややり直しを防ぐために段取りを重視した質の高い仕事をするための考え方である自工程完結を身につけるためのものである。また、専門技能研修は技能職社員全員を対象に、工場が必要とされる知識・技能を体系的に学ぶための研修で、社員はA~C級を、ステップを踏んで学ぶことで、合格者を級認定している。これにより、社員の人的資本の価値向上は間違いなく達成できると感じた。しかし、これらは組織特殊的な人的資産の割合が大きく、もし転職などを考えているならば、人的資本の価値向上としては不十分だと考えた。私はこの業界の知識がないためはっきりとしたことは言えないが、一般的な資格を取れる制度を作るなど、汎用的な人的資産を身につける制度を作るといいのではないかと感じた。

5. 報告書にはどのような改善余地があるか

今回統合レポートを読んでみてとにかく感じたのは、情報量が多い、ということだった。統合レポートは全52ページからなっており、その一つ一つのページに、小さい字で文章がぎっしりと書かれており、全てを読むのにかなりの時間がかかってしまった。今回のように、課題として読むことを迫られている場合は良いが、愛知製鋼に興味を持った人が少しだけ

見てみよう、と覗いた際には、ぎっしりと書かれ過ぎているため読むのをやめてしまうのではないかと感じた。また、情報量が多いため、愛知製鋼の目指している姿や競争優位性などを探す際に、統合レポート内にしっかりと書かれているのにも関わらず、それを探し出すのに時間がかかってしまった点ももったいないと感じた。これらを改善するために、なるべく文章ではなく箇条書きなどで書き、色分けや、文字の大小を利用として重要なことが一目で分かるようにすればいいのではないかと考えた。また、多少ページ数が増えてしまったとしても、もう少し文字の大きさは全体的に大きくした方が良いと思った。これに加えて、構成について、この統合レポートでは愛知製鋼の強み、となるアピールポイントが最後の数ページに書かれていた。しかし、私はそのページを読んで愛知製鋼の凄さに気づき、とても興味を持って読むことができたため、この強みについては冒頭部分に書く方が良いと思った。

<参考文献>

愛知製鋼「統合レポート 2021」